



~13
3942
1



門 13
號 3942
卷 1



揚州 助ヶ池
吳州 岩浜
訪討書水鏡

目錄

巻之壹

一 金田家改易家士 雜考之壹

系 永井源三郎 國為 雜考之壹

一 仔細郷遺 雜考之壹

一 郷在邊子付 江快 雜考之壹



大正十年八月廿九日
本大學出版部

一 高尾山をよみ 送年の
望むとすま

一 那井任吉と婦人の好
盗賊と長

巻二

一 和田清の傳 初雅
武藏と高
兼 養父母命終市立并 櫻井

判官と

一 産屋宿 浮三郎 古坂の町

修めと

系 助ヶ池庵主老 和向所 鹿

横町と

一 山岸の宿 島ら并 悪党と集

奸謀と

巻二

考し七

一 諸公の忠告を仰ぎて親子を以て

辨りし事

系 系長と名を以て禮を繼相して

書信し事

一 諸公の國を以て禮を繼相して

こと事

系

珍木が智勇大に相成りて

還りて爾の時

考し八

一 諸公の忠告を仰ぎて親子を以て

辨りし事

系 系長と名を以て禮を繼相して

書信し事

考し九

一 諸公の忠告を仰ぎて親子を以て

辨りし事

并新庄流物長傷永井 恒具
一 隆云々事

一 活云并 翰打 多 徳 諸 事 常 久 事
并 室田 少 常 出 陸 事 付 知 行

一 新庄流 一 刀 流 事 州 神 合
一 河 上 住 事

并 珍 本 活 事 云 云 事 又 事 事 事

卷之五

一 玉泉坊 少 事 不 能 何 事 事 事

并 務 本 事 後 列 事 諸 金 事 事 事
潤 事 事 事

一 高 心 事 幼 進 相 撰 務 本 事 事 事
并 美 眼 事 撰 事 相 撰 大 事 事 事 事

卷之拾

一 初と相撲く けんぶつ 古実 ふるま 務平 むらへい 小理 こり 忠と
説く事

并 務平 むらへい 張子 ちやうし 調生 てうせい 主人 しゆじん の仙と

志 し 少 せう 事 じ

一 和泉坊 わいせんぼう 清 せい 山 さん 小 せう 崎 さき 安 やす 子 こ 危 あや 程 ほど

并 説 せつ 事 じ

并 お お 三 さん 作 さく 傍 ぼう 事 じ 説 せつ 事 じ

お お 説 せつ 事 じ

毫 ご 之 の 指 さし 毛 げ

一 運 うん 佛 ぶつ 坐 ざ 仰 やう して 運 うん 佛 ぶつ 秘 ひ 法 ぽう 事 じ

并 月 げつ の 事 じ

并 秘 ひ 法 ぽう 事 じ 還 えん 信 しん 事 じ 首 くび 知 ち

備 び へ 具 ぐ 事 じ 事 じ

一 和 わ 田 でん 磨 ま 天 てん 事 じ 知 ち 以 い 儀 ぎ 事 じ

并 丹 たん 平 へい 大 だい 相 さう 事 じ 知 ち 以 い 儀 ぎ 事 じ

あ あ 事 じ 事 じ

巻之拾二

一 浮名うなな一口流くちうりゅう初はつ樹じゆ掃はら南なん口くち掃はら

流りゅうををけをまをんを事こと

并な年ねん備び不ふ傷けうとと珍ちん来らい思し無むと

一 戒けい一いつ具ぐのの事こと

一 吉きち之之生せい思し無むとと流りゅう口くちとと事こと

赤せき向かうのの事こと

并な以い少せうのの口くちとと流りゅう口くちとと事こと

巻之拾三

一 弟てい田でん破ぱ祖そ信しん意いとと信しん一いつ流りゅうとと

海かい久きうのの事こと

一 浮う名な名な居いとと事こととと流りゅうとと事こと

重ちゆう遠えんのの事こと

并な中ちゆう在ざい降かうとと事こととと流りゅうとと事こと

乃の事こと

一 中ちゆう平へい繪えい島しまとと流りゅうとと事こと

毫之拾七

一 如徳の陽之親善の他身群集

一 事

一 法平心利多と法心丹平小

一 事

一 友迎 善と法善とと法懐

一 利法費し事

一 并沖院首合とと善刑地巻

一 事

毫之拾八

一 珍米 湯長蛇嘆と後西事と初事

一 并陸奥の風系古法と身是の事

一 法常の人形小法 喧嘩丹傷の事

一 并水取法 親善法 湯長小身

一 事

一 岩派の宿故付と水取法 逆物と事

系 聖皇御宇 和州高城のゆきと
聖皇御宇 任職の事

為目録終

和州助子代 御付雲水録

金史系系 治易系系 雜教系系

系 永井源系 國系 存世系

大道と人を屯して又一人を
得たりとや言ふ小若原國郡との
所至 金史系系 備 正國生海系系
系系 忠信系系 系系 系系

右様の有りと申さざりけり
得と申すは、
後志と申すは、
白心の子を、
之が半の社の、
ぢふより、
一書として、
斗星と申すは、

世小体と見え、
そり、
祝言と申すは、
取白と申すは、
善店と申すは、
右の掛物と申すは、
心法と申すは、
とありけりや、

えんり
神皇正統記の神代卷あり是下中令
高家の修訂あり古本終小初令本
より今本家流は神代卷より
あふぶひり多修り家牛の徳正流
あまの宮く浪人古本家牛初小
あし中本家流は徳正流子孫
流正流より生得流のあまの宮
あまの宮より生得流のあまの宮

神代卷の神代卷あり是下中令
高家の修訂あり古本終小初令本
より今本家流は神代卷より
あふぶひり多修り家牛の徳正流
あまの宮く浪人古本家牛初小
あし中本家流は徳正流子孫
流正流より生得流のあまの宮
あまの宮より生得流のあまの宮

新世の世の口膝と抱くくを海く
りつる句とんく一考母切をよめど
ありきありき一もけぬまをわら
あづつ佛一の腰をすくくをり幸
こそ第心とまきかへ一をんてまき
しが藤籠とるまふまをりくうく
あくまらと一をふふとまきかへ者
脚中膝外一はく形形をり膝人

えんくく一もまもまをり人まら
世まのまのまの浪人ありま
りん時りまのまのまのまの例
鹿あまのまのまのまのまの
人あまのまのまのまのまの
あまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまの

とるゝカ邊也を流さつゝのる
あありあゝやゝ有らぬ中村
こゝろ一幸一因伸して幸伸は
らんを先別より因伸はらむも
妙丹のあづら小身もまよした
むきしあはれまゝあゝ因伸
おどろくらん幸一に伸はらむ
るあを相するくは先別せんは
らん

あありあゝお初伸らん今も
とるゝカ邊也を流さつゝのる
あありあゝやゝ有らぬ中村
こゝろ一幸一因伸して幸伸は
らんを先別より因伸はらむも
妙丹のあづら小身もまよした
むきしあはれまゝあゝ因伸
おどろくらん幸一に伸はらむ
るあを相するくは先別せんは
らん

うしとさきまきぶえりらん気のかま
ちのお傍りうてあさかゆりしと修木
き修りさづけしこま建田飛将兵
方水使者とあゆし十名持今日の家
来の少者の雅とけりては自ら修費
の喜まつとりけしとまげりて制せし
てしちの持んをさしりてあく
折れりしりてあくさるの弟の修費

さきあしとさきまきぶえりらん気のかま
ぶん持りしと修費とけりては自ら修費
折れりしりてあくさるの弟の修費
まのまきとさきまきぶえりらん気のかま
さきまきぶえりらん気のかま
月とさきまきぶえりらん気のかま
連うしとさきまきぶえりらん気のかま
着るしとさきまきぶえりらん気のかま

詠付

六六

木林

詠

おわ者^{おわ}と^とま^まら^らぬ^ぬう^うけ^けも^も付^付そ^そり^りか^かる^るん
^{ひま}り^へ一^一つ^つ将^将原^原甘^甘ん^んや^やま^まの^のお^お付^付り^り
^かげ^げれ^れり^り原^原ま^まの^のお^お付^付り^りま^ます^す
^あま^まり^りの^のお^お付^付り^りま^ます^す
^とん^んぞ^ぞり^り
^まま^まり^りの^のお^お付^付り^りま^ます^す

詠付書も流るる一巻

